

---

# 入魂

なかもと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

入魂

### 【Nコード】

N6761C

### 【作者名】

なかモト

### 【あらすじ】

男の見たものとは…少年が恐怖したものとは…読んで当惑する不

条理掌編

その男は頭上を見上げポカーンとしていた。

見ているのは晴れ渡った雲ひとつない青空。いや、そうではなかった。男は、その男にしか見えない何かをずっと見続けている。それはどうやら一点に停止しているようだ。しかし男の見ているあたりには何も無い。なのに男は明らかにそこにある何かを見ていた。

大勢の人々が蠢く広場の真ん中で、男はひとり、頭上を見上げ続けた。

随分と時間が経った。男は相変わらず微動だにせず、ただ頭上の一点を見続けている。

男の傍を少年が通った。少年は男に気を止める。本能的にその男から何か言い知れぬものを感じ取ったのだ。少年の瞳には猜疑という斑点模様がチカチカと浮かんでいた。

少年はおもむろに男に近づき、言い放った。

「こら、おっさん、なにしとんじゃ!」

男はその声を無視した。そして頭上を見上げ続ける。もしかしたら男にはその声が届いていなかったのかもしれない。少年はさらにでかい声を放った。

「おっさん、なにしとんじゃ!」

男に反応はない。

「なんじゃ、この、おっさん。気違いか?」

少年はそう口にしてから、しばらく何かを考えていた。少年は思いつく。少年はその男のケツを蹴ろうとした。

男はそれを一瞬、なぜか察知したようだった、しかしその意思はすぐに消失した。男は漫然と、何もない頭上を見上げ続けた。

次の瞬間、少年の力強い蹴りが男のケツに決まった。ジャストミート! 男はよろけて倒れこんだ。表情はわからない。声はあげなかった。

6秒後、男はカラダに付着した細かな土も払わずに、すつくと立ち上がり、また頭上を見上げた。

男の表情に不安の色はない。男は凜としていた。

少年の心に、避けようのない鋭い恐怖の矢が、深く突き刺さり抉った。

「死ね、糞ジジイ！」

少年は震えていた。そしてその瞳には、ぬっぺりと涙が滲んでいた。

そのとき、頭上を見上げている男の表情が一瞬、揺らいだ。その表情は微笑みに似ていた。いや間違いない。それは確かな微笑みだった。

男にはそれが見えているのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6761c/>

---

入魂

2010年10月11日00時47分発行